

五色沼自然探勝路の通景線確保 ～自然環境の保護と利用の両立を目指して～

木下秀幸（福島県生活環境部自然保護課）

要 旨

特異な自然景観を有する五色沼湖沼群においては、近年ヨシ等の繁茂により景観が阻害される状況となっており、県では学識経験者や関係機関と協議をしながら、その優れた自然の風景地を保護するとともにその利用の増進を図るという自然公園法の目的に則り、通景線を確保するための管理行為としてヨシの折り倒しを行っている。

これまで自然環境への大きな影響は確認されていない。

I 五色沼周辺の自然環境

裏磐梯湖沼群は県内でも有数の観光地であり、特に五色沼周辺は「異なった水色を呈する湖沼群がその周辺植生と一体となって原始的自然景観を形成しており、これの一体的保護を図る」目的で磐梯朝日国立公園の特別保護地区に指定されている。

II 探勝路としての機能低下

五色沼湖沼群を巡る五色沼自然探勝路には毎年多くの観光客が訪れ、自然観察等に利用されており、各湖沼の要所には湖沼の眺望をより楽しめる最低限の施設を設置している。

しかし、近年、湖沼内のヨシが生育して自然探勝路からの眺望を阻害するようになり、ヨシ刈りが強く要望されるようになった。



瑠璃沼 平成 24 年 8 月 2 日 施行前

III 通景線確保の取組

これを受けて、特別保護地区における植生遷移や野生動植物に影響を与えることなく通景線を確保していく方法等を検討するため、県は自然保護や観光の専門家、行政機関などからなる「五色沼自然探勝路歩道管理検討会」を平成 20 年に設置した。

検討会での議論を踏まえ、平成 21 年度から管理行為の一環として、眺望を阻害するヨシの折り倒しを行い、主に植生と周辺の自然環境への影響を確認している。



瑠璃沼 平成 24 年 9 月 5 日 施行後

IV 管理行為の結果と環境への影響

折り倒しによって沼面が見えるようになったが、ヨシの本数や他の植物の群落組成の状況を調査した結果からは、自然環境を改変するような影響については確認されていない。